

# 畿央大学後援会だより

発行：畿央大学後援会  
2023年9月1日  
第29号



## ご挨拶

畿央大学後援会 会長  
中永 和美

会員の皆様におかれましては、日頃より後援会の活動につきましてご理解ご協力を賜り、感謝申し上げます。

さてこの度は、畿央大学開学20周年、畿央大学付属広陵こども園開園、おめでとうございます。式典において、冬木学園創設者である冬木智子先生のお声で「創立の心」を拝聴いたしました。感銘いたしました。冬木智子先生が夢と理想を高く掲げたいとまとめられたお言葉は「徳をのぼす」「知をみがく」「美をつくる」でした。『第一に、生命の尊さを感じ、他の者に真の幸せを与えることが「徳」であり、「徳」を持って人と接すれば相手もまた応えてくれるものであります。第二には、「知をみがく」ことをあげます。幼少時代より旺盛な知識欲をもって、先人の残した広範で崇高な英知や人格に触れ、自己の心身に吸収することに励むべきです。第三の精神は「美をつくる」こと。美しいものを創造できる情緒豊かな感性を養うことも、物に埋没しそうな現代社会において、美しい未来を創造するうえで不可欠の目標であると考えます。むすびとして、私たちは目に見えぬものに対する畏敬の念と真摯な態度で、原点に立ち返ってすべてのものを見直すべき時ではないかと思えます。』以上の引用は、2000年に発行された『生きる』という冊子に綴られております。

昨年一年間後援会の一員として、学生たちを見守ってきましたが、その根底には「徳をのぼす」「知をみがく」「美をつくる」が根付いていることを実感いたしました。今学生に求められる学力は、グローバル・スタンダードとしての資質・能力形成です。学生がただ学ぶだけでなく、学んだことを基に何ができるかを考え、それを自分の生き方に収斂させていくといった「生きて働く力」です。こんな学びの力を培っていくには、やはり教師、指導者、保護者の出番です。学生が興味・関心をもって自分から学びたい、やってみたいと一歩踏み出す時、これを後援会はバックアップしていきたいと願います。

## ご挨拶

学校法人冬木学園 理事長  
畿央大学 学長  
冬木 正彦



保護者の皆様には、畿央大学の教育活動に対して日頃より深いご理解とご支援を頂き、心より感謝申し上げます。

本学の教育環境は、日本でも屈指の先進的な環境です。学生全員に貸与しているノートPCと本学独自の授業支援システムを連動させることで、できる限りの双方向のコミュニケーションが保てるよう教職員に尽力していただいています。

このような環境下で学生一人一人に教職員がきっちりと繋がり、強い「絆」で結ばれていることが、本学の教育の優位性であり、いま日本で最も求められている個別最適化の教育を先取りしてきました。厳しいコロナ対応が求められた3年前でも、本学での学びは、環境の先進性と教職員と学生が強い絆で結ばれていることにより、従来とほぼ同じ教育の質を保つことができました。

しかしながら、ポストコロナの時代となり社会生活そのものが大きく変わったことにより、今まで私共が経験したことがない新しい問題に直面しています。

一つ目は、コミュニケーションの問題です。少し上の世代からは想像もできない、物理的な現実とバーチャルが入り混じった新しい世界に生きている若者が増えています。このことにより、社会性や対人関係能力を十分には育めないのではないか、ということです。

二つ目は、人工知能の急速な普及への対応です。ChatGPTなど「生成AI」の日常生活への浸透は驚くばかりですが、AIに使われるのではなく使いこなす人になることが課題です。

このような問題はありますが、最初に申しました本学ならではの教育の優位性をベースに、学生諸君とのコミュニケーションを図り、先端技術の利活用に必要な教育に取り組んでまいります。

保護者の皆様には、ご子息ご息女の成長を見守っていただき、学生と教職員が一体となって進めている本学の教育へのご理解とご支援を引き続き賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

CONTENTS	ご挨拶	P 1・2	健康栄養学科	P 8
	保護者懇談会・後援会総会	P 2・3	人間環境デザイン学科	P 9
	保護者懇談会・講演会要旨	P 4・5	教育学部 現代教育学科	P 10
	学科のページ		担任からのメッセージ	P 11~14
	健康科学部 理学療法学科	P 6	アンケートへのご協力ありがとうございました	P 15
	看護医療学科	P 7	授業日カレンダー・畿央祭	P 16



## ポストコロナの 大学教育

健康科学部長  
健康科学研究科長  
臨床細胞学別科長

植田 政嗣

後援会会員の皆様からは、日頃より畿央大学の教育活動に対し、深いご理解と多大なご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症もようやく終息の兆しが見えてきました。畿央大学でも、対面授業が大幅に復活し、クラブ活動やイベント開催などもほぼ平常通りの運用が可能となってきました。一方、コロナ禍で全国的にもオンライン教育が急速に拡充され、時間的・空間的な制約にとらわれずに学修できる環境が一層整ってきました。ニューノーマルといわれるポストコロナ時代における大学教育はどうあるべきなのでしょう。

大学教育には、「知識の伝達」と「人間的な成長」という二つの目的があります。オンライン教育が充実してくると、履修すべき授業内容がネット上で瞬時に閲覧できるため、学生がそれを受講すれば、知識の伝達という目的は達成されます。しかし、人間性の涵養や人間的な成長という目的は、学生同士や学生と教員の交流によってのみ達成が可能です。大学には、そのキャンパスだからこそ集える「場」が求められます。そして、その大学だけが持っている人的ネットワークが求心力となり「コミュニティ」が形成されます。この大学という「場」や「コミュニティ」における多種多様な活動にこそ、人間形成をする「学び舎」としての大学の存在意義があります。その重要性が図らずもコロナ禍により再認識されました。

畿央大学では、ICTネットワークによるライブ授業やオンデマンド配信など、リモート学習を併用しつつ、多様な形態の授業を通じて学生が自身の能力や習熟度に応じた授業選択ができるように、ポストコロナ時代の新たな大学教育のあり方を模索してきました。それに加えて、大学を、単に授業を受けるだけの「学校」としてではなく、学生同士が交流し、教職員とかかわり、あるいはさまざまな困難を乗り越えるための相談の場とすることにより、大学を人間に必須な社会インフラに成長させることができると思っています。どうか今後とも「やさしさをチカラに変える」畿央大学へのご支援を何卒よろしくごお願い申し上げます。

## 前期卒業式

教育学部長  
教育学研究科長  
畿央大学付属広陵こども園長

前平 泰志



畿央大学後援会の皆様には、常日頃より本学の教育と研究に關しまして、温かいご理解と多大なご協力をいただき、心から厚く感謝申し上げます。

この便りがお手元に届くころは、すでに前期授業が終了して学生にとっては夏季休暇のただ中にあることでしょうか。また、教育学部の学生にあっては、この期間の後半部からは教育実習や保育実習など各種の実習に参加していく学生も少なくありません。大学としても、英気を養いながらそろそろ後期に向かって準備を開始するところです。

今年度は、久しぶりに保護者懇談会が開催でき、保護者の方と直接お顔を拝見していろいろお話しを伺うことができました。コロナ禍から脱した教育学部は、後述の島学科長の報告にもありますように、前期から様々な「深化」を遂げていっており、躍進を続けています。

そのようななかで後期授業の開始に先立つ9月の下旬には、前期の卒業式が行われます。日本では3月の卒業式の行事が全国の学校のなかで恒例の行事となっているために、年度の途中にある卒業式を奇異に感じられる方もいらっしゃるかもしれませんが、諸外国ではこちらのほうが一般的なところもあり、大学にとって規模は小さくとも重要な行事のひとつには変わりありません。

私は、この人生の門出にあたって、4年間を越える期間を本学で大学生活を送った学生に、3月期の卒業式と同様に、いやそれ以上に思いを込めたメッセージを祝辞に込めることにしています。たくさんのことを学び、たくさんのことを学ぶためにたくさんのことを捨てざることもあった彼（彼女）らに行く手に幸いあれと願っています。大学は卒業生たちの活躍をいつまでも見守っています。どうぞ、後援会の皆様も、在学生同様卒業生に対しましてもあたたかい眼差しを向けいただきますようよろしくお願いいたします。

## 2023年度 保護者懇談会を開催しました

7月1日（土）午後1時半より保護者懇談会が開催されました。暑いなか全国各地から247組310名の保護者様にご参加いただきました。

全体会に先立って行なわれた個別相談会では、保護者の皆様から成績や進路に関すること、学校での様子など、さまざまなご相談をいただき、それぞれの担任との面談

を行いました。

冬木記念ホールで行なわれた全体会では冒頭に冬木学長、後援会会長よりご挨拶があり、引き続いて、教育学部現代教育学科の小山内秀和教授による講演「大学でどう学び、何を身に付けるのか～客観的に考え、読み、書くことを目指して～」をお聞きいただきました（講演要旨は4、5頁をご参照

ください）。参加者からは、「小山内先生の話がわかりやすく大変勉強になりました。」「ChatGPTなど世の中の流れを知る事ができました。」「とても聞き取りやすく、私自身も学ばせて貰えた講演でした。」「子どもがどのように学習しているのか、少し知ることができたように思いました。」等、たくさんのご感想をいただきました。

全体会の後は学科別に分かれ、学科別説明会を開催しました。各学科の教員から学修内容や普段の学生生活についての説明をしました。「海外インターンの内容がわかり、娘に参加させたいと思いました。また先生方の手厚いサポートについても具体的にわ

かり、安心しました。」「ゼミの様子を深く知ることが出来ました。」「子どもが一生懸命取り組んでいる学修内容について説明を聞かせて頂き、よかったです。」「先生と話ができ、また実習室や実験室の見学ができて楽しかったです。」などの感想を頂きまし

た。

保護者の皆様から頂いたご意見を参考に、来年度の保護者懇談会を企画してまいります。これからも、多くの保護者の皆様のご参加をお待ちしております。



## 2023年度 後援会総会をWebで開催しました

今年度におきましては、畿央大学後援会総会をWebにより書面審議にて行い、皆様からのご意見を頂戴いたしました。

Web総会では、後援会役員会にて検討された議案について審議をお願いしました。

まず、2022年度の事業報告と決算報告を行いました。

次に、2023年度事業計画、予算案をご審議頂きました。2023年度事業計画では、後援会として実施する事業を提案しました。2023年度予算では、海外研修奨励金については、本年度は海外プログラムを拡大する予定をしておりますので、昨年度より増額して予算計上しました。「食の支援」(大学食堂の週替わりのメニューについて後援会から支援する)についても、昨年に引き続き予算を計上しました。また、学生の登学の利便性向上として、バス回数券の補助を行い、バス通学の利用促進の実証実験のための予算を計上させて頂きました。

施設・設備助成については、キャンパスの緑化事業と施設の補充を積極的に推進していきます。

役員の変更では、25名の役員様と3名の顧問が承認されました。本年度の役員様は右記のとおりです。

以上の内容につきまして議案通り承認いただきました。

後援会役員に興味・ご関心のおありの方は畿央大学学生支援センターまで遠慮なくお問い合わせください。

### 畿央大学後援会とは

畿央大学後援会は、畿央大学の学生の父母または保証人をもって構成される団体です。学生の教育や厚生に必要な施設設備の充実、研究活動やクラブ活動などに必要な援助を行うことによって学生生活の充実と畿央大学の発展に貢献することを目的としています。また、会員相互の連携をすすめるとともに大学と父母または保証人をつなぐ役割を担って、保護者懇談会や広報の取り組みをすすめます。

### 2023年度 畿央大学後援会役員

役 職	役員氏名	学生の所属等
会 長	中永 和美	現代教育学科 3 回生
副 会 長	篠本 由美子	理学療法学科 4 回生
副 会 長	嵯峨 恵美	現代教育学科 4 回生
会 計	岡野 加奈子	理学療法学科 3 回生
会 計	小松 美佐	学生支援センター職員
書 記	中東 瑞和子	現代教育学科 3 回生
書 記	山本 泰	学生支援センター職員
委 員	有井 美栄	理学療法学科 4 回生
委 員	木口 加壽衣	看護医療学科 4 回生
委 員	佐々木 啓子	現代教育学科 4 回生
委 員	里 美穂	現代教育学科 4 回生
委 員	竹内 明子	現代教育学科 3 回生
委 員	谷口 博子	現代教育学科 3 回生
委 員	谷水 さおり	理学療法学科 2 回生
委 員	吉上 剛司	看護医療学科 2 回生
委 員	磯田 喜義	人間環境デザイン学科 2 回生
委 員	今田 美佐	人間環境デザイン学科 2 回生
委 員	山崎 沙衣子	現代教育学科 2 回生
委 員	井原 直美	理学療法学科 1 回生
委 員	木谷 博記	理学療法学科 1 回生
委 員	村井 篤史	人間環境デザイン学科 1 回生
委 員	村岸 香織	人間環境デザイン学科 1 回生
委 員	石川 啓子	現代教育学科 1 回生
監 事	大川 京子	現代教育学科 2 回生
監 事	山下 有希子	現代教育学科 1 回生
顧 問	冬木 正彦	畿央大学 学長
顧 問	植田 政嗣	健康科学部 学部長
顧 問	前平 泰志	教育学部 学部長



# 大学でどう学び、何を身に付けるのか

## ～客観的に考え、読み、書くことを目指して～

教育学部現代教育学科 准教授 小山内 秀和

### AI時代の「アカデミック・スキル」とは

皆様、「ChatGPT」をご存じでしょうか。ChatGPTは昨秋以来、様々な領域にインパクトをもたらしているAIツールです。AIに指示を出すと、会話をするような感覚で言葉や文章を返してくれます。できることが広範囲であり、対話形式で質問をするだけで、利用者が望むテキスト（文章）だけでなく、要約や箇条書き、資料の基となるものさえ作成してくれます。それを見ますと、それなりに論理的で、教員から見ても「上手いなぁ」と思う文章です。

私も試しに「畿央大学について教えてください」と質問をしたところ、「畿央大学は奈良県大和郡山にキャンパスを構えています。」と答えが返ってきました。「あれ？ここは大和郡山じゃないぞ？」となったのです。同じようなことが様々な方面から報告されていて、「AIはものすごいインパクトを持っているけれども、実は万能ではない」ということがわかってきています。今回AIがこのような間違えた答えを出したのは、本学に関する情報を十分に学習していなかったためと思われます。数か月ないし1年すると、本当に正確な情報が返ってくるかもしれないところにAIの恐ろしさがありますが…。ただ、その回答を読んだ人たちが本当だと思うかもしれないと考えますと、やはり、AIを利用する側がきちんと論理的に考え、AIはこのようなものだ

と理解し、適切な指示を出さなければならぬということが、わかるのではないかと考えます。

このように生成系AIが普及してきた現代において、より一層重要になるのが、“客観的に読み・考え・書くスキル”ではないかと考えます。以前より「アカデミック・スキル」と呼ばれる技能・能力を育成することが重要だと言われてきました。これは、高等教育の中で身に付けることが期待される学習スキルのことです。具体的には、自分で正しい問いを立て、情報を見つけること。見つけた情報を正確に読み取ること、読み取った情報が正しいか否かを吟味すること。得た情報を材料にして自分で論理的に考え、結果を論理的に発信すること。このような能力＝スキルが求められています。今後AI技術が発展していく社会においては、より一層アカデミック・スキルの重要性が増していくと考えています。

先ほど“客観的”に読み・考え・書くスキルや、“論理的”に考えると申しましたが、客観的とはどのようなことでしょうか。客観的の反対は主観的です。では読む・考える・書くにおいて主観的な時と客観的な時には何が違うかを考えてみたいと思います。

例えば読むときですと、主観的に読んでみると、つい自分の意見や価値観が混ざった解釈をしてしまうことがあります。例えば、誰かがSNS上で「私は犬が好きだ。」と言うと、それを見た人が「猫は嫌いなのか？」

といった意見を出してくることがあります。しかしこれは客観的な考えではありません。なぜかということ、発信者は「犬が好き」とは言ったけれども、「猫が嫌い」とは一言も言っていません。しかし、「犬が好き」という文章を読み取った人が「猫は嫌

い」という解釈を“つい”してしまうということが起こりえます。こういった主観的な読み方あるいは考え方・書き方は、論理的・客観的に考え発信するところでは邪魔をする役割を果たしてしまいます。

“客観的”に読むときには、自分の意見を挟まずに、著者の意見や根拠をきちんと読み取る、文章からできるだけ離れないように読み取るスキルが求められます。自分の意見と合わないことが出てきたときには、無視せず吟味して自分の考えが正しいかどうかを考え直すことができると非常に論理的になります。

また、書くことに関しても、自分の考えたことをつい結論として文章を書いてしまうことがあります。学生に限ったことではなく、私も研究者の駆け出しだったころに「結論ありきの研究になっていませんか？」と注意を受けることがありました。いかに自分の結論に固執せず、論理的な筋道をもって読んだ人に自分の考えを伝えるか。そういったところが求められるのではないかと考えています。

### 「アカデミック・スキル」の育成

ところで、私の研究は「物語の理解」です。物語を読んで内容を頭の中に膨らませていく、想像力を持って読むことが人にとって豊かな体験をもたらしてくれる。そのような研究をしています。ではなぜ論理的とか客観的といった話をしているのかというと、「読解のつながり」に関係があるからです。

あるプロジェクトに参加した際、物語を読むときと、新聞や報道・論説等の文章を読むときでは求められるスキルが異なっているかもしれないということに気付きました。そこから、論理的な思考やアカデミック・スキルといったものを育成していくことが非常に重要だと考えるようになったのです。

学生にどんなことを身に付けて卒業してほしいかということを考えたときに、大学はそもそも何をやるかということを考えなければならぬと感じました。大学は教育の場であると同時に、研究の場でもあります。研究の仕方を教えるということ



も、実は重要です。

研究とは、今までの知識や情報の中でまだわかっていなかった部分を探し出し、新しい情報を得て、発信していく営みです。勿論、このような「知識の産生」にはたくさんの方の知識を吸収することが必要です。だからこそ、「大学での活動は、知識の吸収である勉強も大事である。けれど、勉強と同じくらい研究＝知識の産生も大事だよ」と教えているところです。

大学での研究にとって必要なものは何かと考えていくと、科学でないといけないということです。科学における研究とは、何かが原因で何かの現象が起きている、そういうことを解明していくことだと考えます。実は科学の営みというのは、論理的でありかつ実在すると考えられる原因と結果の法則＝因果法則をいかに引き出すかが鍵になります。この科学的であるということのために必要なことが、客観的と同じくらい重要な“論理的”であるということです。

論理的というのは何か根拠があり、それに基づいて主張が行われることです。つまり、何か自分の考えを主張するときには「こうです」というだけではなく「こうだからこうです」と、根拠を必ずつけて話をします。主張の根拠は、実は事実でも意見でもよいのですが、根拠が意見の場合は根拠が事実である場合よりも説得力が弱くなるという点が重要です。

私たちは論理的な型を使って何をしたいかということ、自分の意見をみんなに説得して納得してほしいのです。みんなに受け入れられてほしいと思うから主張するのであって、そのためにはやはり説得力の強い根拠を示していくことが大事であると考えられます。

このような考えを基に、学生には、次のような力を身に付けてほしいと考えています。「アカデミック・リーディング」＝文章を正確に読み取り、内容を論理的に理解する力。「クリティカル・シンキング」＝データや情報を鵜呑みにせず、論理的・客観的に考え、内容を吟味し、正しいか否かを自分なりに判断する力。そして、それらを基に産み出される文章を書くときに、論理的な文章を書くように心掛け、自分の主張に説得力の強い根拠をつけながら発信する力です。

このような話をすると、アカデミック・スキルって大学の中だけで必要とされる力ではないか？と意見をいただきます。しかし、アカデミック・スキルは、大学以外の場所でも役立つものではないかと、最近は考えるようになりました。将来、仕事に携わる中で色々な課題に直面することがあると思います。ですがこのような課題とは、すべて新しい知識・情報・やり方を日々生みだしていく試みのことではないか。そのように考えると、研究すること、その土台



である論理的に考え、自分なりの主張をし、発信していくこと、それらはどの職種に行っても基本的なスキル＝力として必要なことではないかと思います。ですから学生には、ぜひ4年間でこうした力を少しでも身に付けて社会に旅立ってほしいと思っています。

### オリジナルテキスト『畿央生のためのアカデミック・ライティング入門』

冒頭でも申し上げましたように、AIが発達し、アカデミック・スキルが尚更重要性を増しています。今後より一層、アカデミック・ライティング、特に「書くスキル」＝自分の意見を発信する力がどの世界でも求められると思います。その力をどのように育て、伸ばしていけばいいか、そのために私たちは何ができるかということを考え、学部学科を越えた教職員によるワーキンググループを立ち上げ、全学生向けのテキストを作りました。それが『畿央生のためのアカデミック・ライティング入門』という本です。今年4月に全学生に配布し、アカデミック・スキルの育成を試みています。

一部をご紹介します。「論文の検索・要約の仕方」についてです。

私たちが文章を書く際は、必ず先人が書いた意見やテキストを参考にすることが必要となります。膨大なテキストの中から必要な論文を探し、自分の考えている問いの種を発見するような活動をします。次にその要約を作成します。その中に自分の意見の根拠にできるものがあるか否か、自分の意見と異なるものに出会った場合は自分の意見をもう一度客観的に考えよう、と授業では話しました。

次に「論文の批判的精読」についてです。論文を読んでわかったことが本当に正確か“吟味する”ということです。すばらしい論文でも不正確であったり、論理性に欠けていたりすることがあります。そのような点を見つけ出し、精査できる学生になってほしいと考えています。そして、文章の骨格

＝アウトラインを作るテクニックを紹介し、根拠を持って自分の意見を主張する＝論証を使って読者を説得する方法を学びます。

最後に今まで身に付けたスキルを用いて小論文等を作成します。その際には文章作成時の様々な約束について具体的な解説を交え、考えてもらえるように工夫しています。

本学では今後、このテキストを一助として、様々な授業を通してアカデミック・スキルを学生に提供できるようにと考えています。また、ブラッシュアップを図りながら、アカデミック・スキル習得や向上のために、全教職員をあげて努力していきます。

学長の挨拶にもありましたように、今ChatGPTをはじめとした生成系AIは非常に大きな話題となっています。本学では今年度「生成系AIの利用について」という方針を出しました。その中でも触れておりますが、生成系AIは決して万能ではないものの、上手く使えば自分の考えをまとめたり、仕事をさらに効率的に進めたりする重要なツールになる可能性があります。だから学生には少しでもそれを使いこなす人になってほしいと思います。そのようなことも含めて今後も、さらに教育活動・学生への支援を続けてまいりたいと考えております。

### 小山内 秀和

畿央大学教育学部現代教育学科  
大学院教育学研究科 准教授

専門は、教育心理学、発達心理学。文教大学大学院人間科学研究科修士課程修了、児童福祉施設勤務の後、京都大学大学院教育学研究科博士後期課程修了。博士（教育学）。文章理解や物語理解、読者が物語に入り込む没入体験についての研究に取り組んでいる。教育学部現代教育学科および大学院教育学研究科で教育心理学や発達心理学に関する科目を担当。

## メッセージ



健康科学部  
理学療法学科  
学科長  
庄本 康治

保護者の皆さまには日頃より理学療法学科の運営・教育にご理解とご協力を賜り、感謝

申し上げます。昨年から開始した「やさしさをチカラに変える次世代リーダー育成セミナー」を2回開催しました。第1回目は4/14(金)に開催し、「急性期病院で勤務する理学療法士の魅力」、講師は佐藤幸秀氏(4期生、甲南医療センターリハビリテーション科)でした。佐藤氏は、認定理学療法士、専門理学療法士も取得され、和歌山県立医科大学大学院修士課程を卒業されておられます。大学院進学、スポーツ理学療法認定理学療法士取得、ご専門の膝関節疾患の理学療法などについて、わかりやすく講演頂きました。178名の学生さんに参加頂

きましたが、1回生含めて多くの質問がありました。

第2回目は6/9(金)、「回復期リハビリテーション病棟で勤務する理学療法士の魅力」、講師は田津原佑介氏(3期生、貴志川リハビリテーション病院リハビリテーション部)でした。治療量増大の工夫、モチベーションの引き出し方、さらに、企業との機器開発などの取り組みについても紹介頂き、進化するテクノロジー対応能力の必要性についても伝わったと感じています。184名の学生さんに参加頂き、大変盛況に終わることが出来ました。

## 全学年症例検討会

4回生が参加する総合臨床実習では、実習指導者のもとで患者さんを評価し、実際に治療します。学生にとっては高度な内容ですので、苦勞をすることも多いようです。また、実習の雰囲気やリアルな情報は、教員の話だけではなかなか伝わらないことも

ありました。

そこで、2010年から総合臨床実習を終えた4回生が、下級生に実習での学びや経験を伝える「全学年症例検討会」を始めました。症例検討会では各学年混成の小グループに分かれ、4回生が司会進行し、教員は

ファシリテーターとして見守ります。4回生は担当症例から学んだことをまとめ、基本的な知識を再確認し、下級生たちに説明できる能力を高めます。1～3回生は現在学んでいる基礎医学と臨床との関係を理解することで、学習へのモチベーションを高めることを目的とし、例年9月中旬に開催しています。今年も成長した4回生と熱心に参加する下級生の姿が見られると思います。



## 新入学生研修レポート

4月7日(金)に大阪ガーデンパレスにて、健康科学部 理学療法学科の令和5年度新入学生研修が開催され、新入生83名、4回生2名、卒業生2名、教職員3名が参加しました。この研修会は新入生に対し、以下の2つを考察することを目的としています。

1. 新入生、4回生、卒業生とのコミュニケーションを積極的に図り、横と縦の絆を深めること
2. 本学の建学の精神「徳をのばす」「知をみがく」「美をつくる」に基づき、レベルの高い理学療法士になるためには、4年間どのように学内生活を過ごすべきか

プログラムは新入生自己紹介、4回生・卒



業生の講演、グループワーク、発表・質疑応答という流れで実施致しました。グループワークでは「建学の精神と理学療法士を考える—すてきな理学療法士になるための4年間—」をテーマに行いました。積極的に意見を出し合い、楽しく取り組んでいたことが印象的でした。終始、交流を図りながら楽しくディスカッションをしており、非常に明るい雰囲気のまま研修会を終えることになりました。

新入生の皆さん、これからたくさんを経験すると思いますが、皆さんの横、縦の絆を大切に、皆さんでこれから様々なことにチャレンジして乗り越え、すてきな理学療法士になってもらえたらと願っております。

## メッセージ



健康科学部  
看護医療学科  
学科長  
河野 由美

後援会の皆様には、日頃より本学の教育にご理解とご協力を賜り、心より御礼申しあげ

ます。さて、新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、ようやく大学もコロナ前の状況に戻りつつあります。看護医療学科ではこれまで、海外インターンシップの渡航先はオーストラリアでしたが、2023年度からはカンボジアに変更致します。カンボジアの海外インターンシップでは国立病院以外にも、本学理学療法学科卒業生が勤務されている病院にも訪問させて頂き、そこで多くの貴重な経験をさせて頂く予定です。ある意味、本学が開学以来、力を入れてきた「チーム医療」や学科を超えたつながりの賜物であるかもしれません。なお、今年2月

に実施された看護師・保健師・助産師の国家試験合格率におきましても、本校はこの3つの国家試験において100%でした。関西の私立大学において、3年連続で3職種全て100%であったのは2校のみです。就職合格率に関しても、近年採用倍率の高い病院もある中、2023年3月卒業生でも第1希望先に就職できた学生の率は82.7%と非常に高率です。今後も学生の夢がかなえられるよう、尽力していきたいと存じます。引き続き、皆様のご支援ご鞭撻をお願い申し上げます。

## 「国際看護学Ⅰ」での学び合い

看護学教育のカリキュラムに基づく、国際社会・多様な文化における看護の役割を学ぶことを目標に、4回生は国際看護学Ⅰを受講しています。今年度は本学科の卒業生であるOさんを講師として招き、オーストラリアにおける高齢者ケアの実際について学生は講義を受けました。Oさんは卒業後、看護師としての臨床経験を積んだのちに、渡豪。つい最近の帰国まで、現地の資格を有して、オーストラリアの高齢者介護福祉施設で国際看護を実践されていました。Oさんは卒業生として後輩の学生に向けての講義で海外での自らの経験を共有できた喜びを、そして、学生はオーストラリアの多文化共生と多様な価値観を持つ人々への看護についての深い理解を示してくれました。この講義を通して、国際的な視点にたち、その国の人々の健康と国際看護への期待について卒業生と在学

生がともに学び合える貴重な機会となりました。今後もこうした学び合いの機会を設定したいと思っています。



第5回 国際看護学Ⅰ

- ・ 国外における国際看護と
- ・ 国際看護活動に必要な能力



## 子育て応援ボランティアサークル「SMILE」が始動しました！

SMILEは、保健師課程の学生が、畿央大学が地域の強みとなる活動計画について保健師実習を通じて作成し、看護医療学科の後輩たちが意思を受け継ぎ実現しました。令和5年3月に誕生した新しいサークルです。地域の子どもや障がいをもつ子どもを対象に「遊び」や「ふれあい」を通じてかわり



愛着形成支援を行い、みんなで笑顔になれたらという思いで活動を始めました。現在は18名で活動しています。活動時期も自分たちで話し合

い、夏季休暇や春季休暇をメインにしています。主な活動内容は、顧問が研究活動で繋がりのある放課後デイサービス、重症児デイサービス、児童養護施設・乳児院、障がい児自主サークル、養護学校等で遊びの提供を行っています。始めは緊張していた学生も、活動を通じて積極的にコミュニケーションをとることができ楽しみながら活動を続けています（Y.T.）。



## メッセージ



健康科学部  
健康栄養学科  
学科長  
栢野 新市

保護者の皆様には日頃より本学および健康栄養学科へのご理解とご支援を賜り心よりお

礼申し上げます。

本年3月に管理栄養士国家試験が実施され、本学からは88名が受験し84名が合格しました。残念ながら全員合格を果たすことはできませんでしたが、95.5%という高い合格率を得ることができました。一方、全国平均での新卒合格率は87.2%となり、前年度から5.7ポイント、過去5年間の平均からは6.4ポイントの大幅な低下となりました。このことから、今年度の国家試験では難易度が明らかに上昇したことが見て取れます。専門家の間では、この難易度の上昇は意図的なものであり、この傾向は次年度以

降も続くであろうと分析されています。

健康栄養学科では、国家試験の合格に向けて様々な対策を実施しています。今回の国家試験の難易度上昇を受け、現4回生に対してさらに充実した対策を展開していきたいと考えています。また合格を果たせなかった卒業生に対しても、再チャレンジへ向けて協力する体制を敷いています。管理栄養士は食と栄養にかかわる唯一の国家資格です。この資格を取得するとともに、大学の学びで得た幅広い専門知識を生かして社会で活躍する人材に育てて欲しいと願っています。

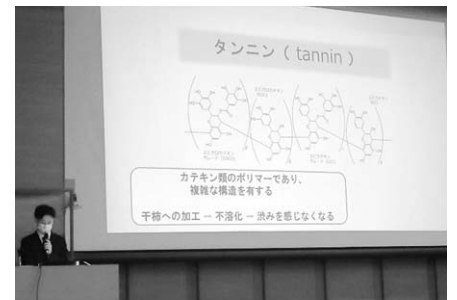
## 卒業研究発表会に向けて

健康栄養学科の卒業研究は選択制になっていますが、今年も多くの4回生が自主的に卒業研究に取り組んでいます。研究課題は食品、調理、給食、臨床栄養、公衆栄養、栄養教育など様々な栄養学分野の中から設定しています。栄養指導の場で活用できる成果や国内外で初めて報告される研究など、学会でも発表できる高いレベルの研究を積極的に進めています。



4回生は国家試験の準備と就職活動を並行して卒業研究を進めるため、ハードな日程になります。研究を進めていくと予想した結果が出ないこと、新たな問題に直面することがあります。問題解決のために試行錯誤を重ねて追加実験を行うことや、データ解析に悪戦苦闘して長い時間を費やすこともあります。最後まで自主性と積極性を持って研究に取り組んでいます。

卒業研究の発表会は例年11月に冬木記念ホールで行います。昨年度は28演題、4回生72名からの発表がありました。発表は広いホールの壇上にあがり、多くの聴



衆の前で行うため、学生の多くは発表前、緊張した表情をしています。しかし、発表が始まり壇上に立つと、説得力のあるプレゼンテーションを行っています。卒業研究発表会は学生が主体となり運営しており、当日の司会、質疑応答の進行などを学生が担当します。研究活動を通して、学生同士が協力して助け合い、友情が深まっていくのも卒業研究の魅力です。卒業研究を通して得た経験と知識は学生の成長をさらに促すことと思います。

## 地元産の大和茶を使用した「ヴィーガンクッキー」と「マドレーヌ」を開発、販売！～健康栄養学科・ヘルスチーム菜良

ヘルスチーム菜良\*は、緑茶（大和茶）ヴィーガンクッキーと緑茶（大和茶）マドレーヌのレシピを開発、畿央祭で販売しました。（※ヘルスチーム菜良…管理栄養士養成課程を持つ奈良県内4年制大学（畿央大学、近畿大学、帝塚山大学、奈良女子大学）で構成されており、食育啓蒙活動に取り組んでいます。）

今回開発、販売した緑茶ヴィーガンクッキーと緑茶マドレーヌには、奈良県産の緑茶パウダーを使用しています。また、種子島産の砂糖や奈良県産の卵などを使用し、素材にもこだわりました。緑茶ヴィーガンクッキーは、卵や乳製品を使用しないことでヴィーガン対応にしました。レシピ考案・試作やお菓子の製造には、奈良県の県知事賞を受賞されたこともあるパティシエのお力をお借りしました。メンバーで休業期間に何度も試作を行い、納得のいくレシピを考案することができました。限られた準備期間のなかで商品の試作やポップやロゴの制作を進めるのは大変でしたが、多くの方に

ご購入いただき、無事完売することができてとても嬉しかったです。購入していただいた方から

「美味しかった」「また食べたい」といったお声をいただき、自分たちが考えたレシピで多くの方に喜んでいただけたことに達成感を感じました。

今回私たちがレシピを考案した緑茶ヴィーガンクッキーと緑茶マドレーヌは、畿央祭後も百貨店や県の銘品館、地域のイベントなどで販売されました。

今回の活動で得た経験を活かし、今後も新たなレシピ開発に力を注いでいきたいと思っております！



健康栄養学科 3回生N



## メッセージ



健康科学部  
人間環境デザイン学科  
学科長  
**三井田 康記**

平素より、本学の教育にご理解、ご支援を賜り、ありがとうございます。

大学に入学したばかりの頃は幼く見えた1回生も、大学生活にも慣れ、授業もにぎやかさを増してきました。2回生や3回生は、製図室の使用にも慣れて、まるで自分の部屋でもあるかのように、製図に、勉強に楽しく製図室を

使っています。にぎやかだった教室も、学期末の定期試験や課題提出が終わり、急に静かになりました。夏季休暇は日ごろできない体験を積む貴重な期間です。

今年の夏は、コロナ禍の影響で3年ほど自粛してきた海外の大学とのワークショップを再開します。学生25名の参加を得て、台湾の国立成功大学と台南市で行います。台湾に滞在するのは8月21日から1週間ほどですが、台湾の学生たちと意見交換や共同作業をするための準備を、学生たちと春から進めてきました。短い滞在期間ですが、異国の環境に身を置き、異国の文化に触れることで、日ごろの身の回りの環境の大切さに気付いてくれるでしょう。また他の大学の学生と接することで、自分の未熟さや周りから寄せられる期待の大きさ等を感じてくれるでしょう。事故など起きないよう

に細心の注意を払って、行ってまいります。一方、2回生、3回生との合同のプロジェクトゼミもこの期間に始まります。学外に出て、調査や見学などを行います。課題解決に向けて議論や共同作業をするうちに学年を超えた絆が生まれ、積極的な態度が培われます。9月半ばからはじまる新学期、4回生は、大学4年間の集大成としての卒業研究がよいよ「やま場」を迎えます。夏休みの間に準備を進めていた成果が問われます。

今年度は、令和6年2月29日(木)、3月1日(金)の2日間、大阪市中之島にある「中央公会堂」のギャラリーで卒業作品展を開催する予定です。4回生の保護者の皆様はもちろんのこと、下級生の保護者の皆様もぜひ足をお運びください。学生の成長に驚かされるに違いありません。

## 授業紹介「ユニバーサルデザイン(環境)」

「ユニバーサルデザイン(環境)」は4回生を対象にした科目です。今日の少子高齢化社会においては、障害者や子供、高齢者、妊婦など、誰もが使いやすく、快適に過ごせる建築、まちづくりが要求されます。本授業では、ユニバーサルデザインを軸にしながら、地域の課題に取り組んでいます。今回の課題として「河合町の地域のコンモンスペースの提案」と題し、住まいが集まった集落空間におけるユニバーサルデザインを考えながら、地域社会の住民の方が使いやすい地域のコンモンスペースを発想することを目指しました。具体的には、奈良県河合町佐味田集落の旧保育園を提案対象とし、そこに集落における課題を解決するよ

うなプログラムを考え、内部空間だけではなく、アクセスや屋外空間も考慮して、ユニバーサルデザインの7原則によって旧保育園の再生の提案を行いました。課題の企画段階から河合町役場、佐味田集落自治会の皆様にご協力を頂き、実践型の課題に取り組むことができました。成果発表会には自治会、役場の皆様とともに、河合町長、河内町議員にもご参加いただき、



ご指摘やご助言、あたたかいお言葉を頂くことができました。河合町の皆様へは深く感謝申し上げます。

## 海外インターンシップ ～台湾 国立成功大学と連携～

今年度の海外インターンシップは、台湾の台南市にある国立成功大学と連携し、「2023 Taiwan Summer Workshop NCKU (台湾成功大学) × Kio University」を実施いたしました。



各グループに分かれて屋台の計画案をディスカッション

台南市は台湾西南部に位置し、早期に開発された市街地であり、数々の文化財や史跡が点在している古都です。今回のプログラムでは、地域のコミュニティスペースの計画に携わり、3種類の屋

台を制作します。参加者は総勢50名を超え、これまでに台湾の教員・学生との遠隔会議や、学内ミーティングを複数回実施し、現地での作業の準備を進めているところです(写真参照)。学生たちの成果と活動を通じた成長を教員一同、大いに期待しております。



国立成功大学とのオンラインミーティングの様子。英語で計画案をプレゼンテーションしました。

現地におきましては、学生の安全確保を第一に、有意義なワークショップとなるよう精一杯務めてまいります。

## メッセージ



教育学部  
現代教育学科  
学科長  
島 恒生

後援会の皆様には、いつもご支援・ご理解を賜り、感謝申し上げます。  
2023 (令和5)

年度は、授業も生活も、コロナ禍前に戻り、キャンパス内でもマスクを取って生活する学生が増えています。笑顔や表情が伝わってきて、思わず、こちらも微笑みが出てきます。

今年度から、教育学部は、いくつかの深化がありました。

1回生から中・高教諭(数学)一種免許状が取れるようになりました。取得を希望する学生が、入学してきました。また、畿央大学附属広陵こども園が開園し、大学の授業などとコラボした取り組みが始まっています。昨年度、初めて実施したセメス

ター留学も成果を挙げ、今年度も引き続き実施します。養護教諭の教職課程には、より実践的なロールプレイや看護実習室での演習など、カリキュラムの充実がなされます。

また、データサイエンスにも強い教員・保育士を育てる取り組みも進めていきます。

一人一人の学生が人生を豊かに築いていけるよう、後援会の皆様には、引き続き、ご支援・ご理解をお願い申し上げます。

## 14期生が卒業!

この春、14期生が大学を巣立っていきました。



実技試験対策で、模擬保育をしています

公立小学校教諭の合格者70名、合格率は85.4%で、過去最高の現役合格率を2年連続で更新しました。公立学校養護教諭の合格者は11名、合格率は64.7%。過去最多の現役合格者数となりました。

公立特別支援学校教諭は3名が受験し、3名とも合格。2年連続で全員合格です。公立中学・高校教諭(英語)は合格者2名、合格率66.7%でした。

さらに、公立幼稚園教諭・保育士は、合格者25名、合格率100%と、5年連続で9割以上

が現役合格しました。

酷暑が続く今年度も、4回生は熱く練習に取り組み、全力で試験に臨んでいます。最近、試験内容が毎年変わっていくところもありま

すが、情報をしっかりと把握しながら、学生と教職員が一丸となって、取り組んでいます。



## 水泳安全指導力養成講座と泳力・泳法レッスン講座を始めました!

教育学部では、7年前に起こった水泳事故を二度と起こさないようにするとともに、本学の学生には子どもたちの命を絶対的に守り、安全に水泳運動を行う指導力を身につけて欲しいと考え、「水泳安全指導力養成講座」と「泳力・泳法レッスン講座」を実施しました。対象は、教育学部の1~4回生で、場所は、大学の斜め向かいにあるイトマンスイミングスクール真美ヶ丘校の室内プールです。

5/31(水)の水泳安全指導力養成講座では、教育学部の辰巳教授と、日本プール安全管理振興協会理事長で本学の水泳実習安全管理担当顧問の北條龍治氏の指導のもと、水泳の「事前指導(教育)」や「安全管理」及び「有事対応」に関す

る知識・技能を学びました。学生からの感想です。

- ・「溺れる」という事故であっても背景は様々であることや、指導と監視は別であるということを改めて考えることができました。
- ・水泳講座を受けて、これまでの水に対する認識が甘かったと感じました。子どもの命と安全を守るためにも、水の性質、人の体と救命の知識について、もっと学ばなければならないと思いました。

一方、泳力・泳法レッスン講座は、スイミングスクールのコーチのもと、水曜日の1限に毎月2回程度実施し、25メートルを正しい泳法で泳ぐことができるようし、教員採用試験の水泳実技試験の対策や将来教員や保育士になったときのための泳力・泳法を身に付けます。この講座は、後期も実施します。

事故の教訓をしっかりと生かして参ります。



# 担任からのメッセージ

畿央大学の担任制度は、教員が担任として学生との人格的な接触をはかり、学生生活全般の指導を行うことによって、建学の精神を身につけた有為な人材を養成することを目的としています。

健康科学部は学科ごとに2～4クラスを編成し各クラスに1名、教育学部はコースごとに2～6名の担任を置くことにしています。健康科学部4回生（人間環境デザイン学科は3回生より）、教育



理学療法学科1回生担任

## 岡田 洋平

クラス全員と個別に面談し、皆が現在やこれまでの色々な話をしてくれました。特に、「理学療法士になりたい」という志をしっかりと持っている人が多く、印象に残りました。学年全体の雰囲気も「やさしさ」が感じられ、非常に良いです。学生たちは専門的な学びに戸惑いながらも、お互いに助け合って頑張っています。また、多くの学生はクラブ活動やサークル、ボランティア等にも積極的に参加しています。これらは、人間性の涵養につながると考えています。ただし、時折熱心になり過ぎて、学びへの影響が心配な学生もいます。個々の学生と向き合いながら今後の成長をじっくりと見守りたいと思っています。



理学療法学科1回生担任

## 瀧口 述弘

入学後の新入学生研修から、学生同士が早く打ち解け、グループワークも非常に上手で驚かされました。担任面談では、皆さん一人ひとりのお話を聞き、夢を追いかける前向きな学習姿勢を見て、私も多くのエネルギーをもらいました。理学療法は人と密接に関わる仕事であり、人間性も磨く必要があります。大学で出会った仲間と様々な経験を通じて、密度の濃い、楽しい学生生活を送っていただきたいと思っています。



理学療法学科2回生担任

## 田平 一行

早いもので入学後1年半が経ちました。大学にもすっかり慣れて、勉強、アルバイト、友人と遊んだり、中には学園祭の実行委員になった者もあり、学生生活を楽しんでいるようです。学習面に関しては、2回生になって専門科目も増え、モチベーションも更に高まっているようです。ただ生活が不規則になっている学生もいるようですので、お気づきの際はご指導いただければ幸いです。今後ともよろしくお祈りいたします。



理学療法学科2回生担任

## 前岡 浩

前期面談の際、「昨年1年間はあるという間だった」という感想が多く認められ、緊張し、忙しく、充実した1回生であったと想像します。そして2回生になり、理学療法における専門科目の講義や実技など学ぶべきものは増え、いろいろな悩みを持っている学生も認められます。そのような中でも多くの学生が前向きに頑張ってくれていると感じます。引き続き、それぞれの目標に向い、充実した学生生活が送れるように丁寧に対応していきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお祈り致します。



理学療法学科3回生担任

## 松尾 篤

学生たちは3回生になり、大学生活の折り返し地点を過ぎました。コロナ禍が終わり、マスク生活から解放され、学生たちの豊かな表情を観察できることに喜びを覚えています。彼らの表情や振る舞いは、徐々に大人になってきており、頼もしくもあります。さて、3回生からは全てが専門必修科目となり、プロフェッショナルに必要な難易度の高い科目を学修しております。また、後期終わりには臨床実習が開始となり、大学から臨床現場に飛び出し、患者さんと実際に関わることとなります。学生たちの夢を叶えるために、私自身も楽しみながら彼らと共に一生懸命に歩んでいきたいと思っています。



理学療法学科3回生担任

## 西井 康恵

大学生活3年目を迎え、すっかり落ち着いた様子です。2回生後期の通所・訪問リハビリテーション実習を経験したことで、表情も引き締まってきました。学内での実習授業でも、周りの人を気遣う言葉かけが、より増えたように思います。休憩時間に体育館でダッシュしたり、楽しそうに体を動かしている学生さんもいて、このまま何事に対しても前向きな姿勢で後期も乗り切ってもらいたいと思います。今後ともどうぞよろしくお祈りいたします。



看護医療学科1回生担任

## 岡 いくよ

大学生活に少し戸惑いながらも、日々課題に取り組まれる姿を頼もしく見つめています。「覚えることが多いので、ひとりで勉強するより友人たちと協力した方がいい、みんな優しいので居心地がいい」などのお話を伺っていると、こちらまで学生さんたちの優しいに癒されることが多々あります。学生さん達の想いを紡ぎながら、無限の可能性を拓くことの助となるべく共に精進してまいります。



看護医療学科1回生担任

## 中谷 香江

初めての面談では、「思っていたよりも勉強が大変」と多くの方が学修面での不安をもっておられました。一方で、コロナ禍の制限が緩和され、新しい友人ができたこと、様々な活動の広がりを楽しそうに話してくださり、夢に向かって成長したいという意気込みが感じられました。専門職を目指すということは、簡単なことではありませんが、困難に向き合い、成長していただけるようにサポートして参りたいと思っています。今後ともよろしくお祈りいたします。

学部3・4回生は卒業研究の指導教員がゼミ担任となります。

担任の役割は、「学習指導」「生活指導」「進路・就職指導」「学生の危機管理」が主なものですが、学生一人ひとりの状況を系統的に把握していくために全学年において年2回の全員面談を実施しています。また、学生の求めに応じ、また必要性が生じた時には随時に面談を行うこととしています。

健康科学部1～3回生担任、教育学部1・2回生担任から、担当されている学生の様子などについて保護者の方へのメッセージを寄せていただきました。



看護医療学科1回生担任

## 前田 則子

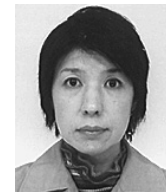
前期担任面談では、皆、明るい表情で話しておられ、大学生活に慣れてきた様子が伺えました。なかには、授業で出される多くの課題、定期試験対策、サークル活動、アルバイトまで両立できている学生さんもありますが、まだまだ時間管理に手間取り、苦戦している学生さんも散見されました。学習のペース配分が早くつかめるよう担任としても支援していきたいと思っています。ご家庭では、睡眠をしっかり取って休養できているか見守っていただければと思います。どうぞよろしくお祈りいたします。



看護医療学科1回生担任

## 中西 恵理

4月の新入学生研修では、緊張しつつも互いに協力し、積極的に取り組んでいる様子が印象的でした。授業では、初めて学ぶ看護技術に戸惑いながらも一生懸命に練習する姿が見られ、とても頼もしく思っています。大学生活にも徐々に慣れて、「忙しいけど楽しい」と話してくれている一方で、大学での学修に対する不安も聞かれます。担任として、一人ひとりが自分の課題に向きあい、目標を達成できるようにサポートしたいと思っています。今後とも、どうぞよろしくお祈り申し上げます。



看護医療学科2回生担任

## 堀江 尚子

大学生活も中盤となり、自分の生活ペースを確立している様子が伺えています。たくさん課題の学習時間の確保に苦労しているようですが、真摯に取り組んでいる様子も伺っています。クラスのほぼ全員がアルバイトをしているという状況ですが、数名の方はアルバイト時間が大変多く、睡眠時間に影響があるのではないかと心配しております。体調面では生活を共にされますご家族の見守りをお願いいたします。



看護医療学科2回生担任

## 祐實 泰子

時が経つのは早いもので、春には2回生になられた皆さんと3回目の担任面談を行いました。以前の様に緊張した様子はすっかりなくなり、楽しく学生生活を送っている様子や初めの臨床実習での経験を熱く語ってくれました。多くの人が将来のことを真剣に考え初めており、成長した姿が印象的でした。今後は、多くの必修科目があるので、集中して計画的に学習することを身につけ、よく学び充実した学生生活を送れるよう見守っていきたく考えています。



看護医療学科 2 回生担任  
**弓場 紀子**

通学慣れ、健康状態が安定してきたことで、やっと自分なりのペースで大学生活を送れるようになり毎日楽しいようです。クラスからは畿央

大学特別奨励賞をいただく学生も選ばれました。一方で1年次の単位を取得できなかった学生もいました。専門科目が開始となり、日々の予習・復習の重要性は分かっているものの取り組みに差が見られているのが心配です。担任として相談できる関係でいたいと思っています。来年度の臨地実習にむけて、単位の取りこぼしをしないように叱咤激励をよろしくお願いいたします。



看護医療学科 2 回生担任  
**對中 百合**

2年生になり、大学生活には慣れてきたものの、看護専門科目が増え、学習や課題に追われている毎日を過ごしているようです。個人面談では、

学習について多くの相談がありました。時間割の空き時間を使って学習したり、友達と相談しながら学習したり、個々の学習における問題点を振り返りながら、取り組んでいます。担任として、それぞれが目指す目標が達成できるようサポートしていきたいと思っています。保護者の方には、健康面や学習環境などの支援を引き続きお願いいたします。



看護医療学科 3 回生担任  
**山本 裕子**

いよいよ4年間の学生生活の正念場、臨地実習が始まりました。実習ではおおよそ半年間にわたり、慣れない医療現場等で看護師の指導を受けながら

実際に看護を実践するため、心身両面での健康管理が重要となります。ご家庭でもご支援の程、お願いします。また、昨今は看護師の就職試験の時期が早まっておりますので、興味・関心のある病院の情報収集を始めております。ご家庭でも将来の進路についてご助言を賜りますようお願いいたします。



看護医療学科 3 回生担任  
**大友 絵利香**

入学時から、新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で規制が多くなかで、学修を積んできた3回生も、いよいよ後期から領域実習を迎えます。

私は2回生後期から3回生前期にかけて急性期看護学援助論Ⅰ、Ⅱや終末期ケア論の授業をとおして学生たちと関わる時間を多く持ちましたが、学生たちが与えられた課題に懸命に取り組む姿や、ケアの対象に関心を持って看護の本質を考えようとする姿勢に頼もしさを感じています。これまで、臨地で実習する機会に恵まれなかった学生もいますが、後期からは実際に患者さんを受け持って看護を展開します。感染対策と健康管理を万全に、実習を有意義な学びの場にしていただくことを願っています。



看護医療学科 3 回生担任  
**須藤 聖子**

3回生になり、これまでよりも各看護学領域のグループワークや課題に追われ、睡眠不足が続いていた様子でしたが、後期の実習に向けて頑

張っていました。1回生の実習が、コロナ禍で学内実習であったため、臨地実習に対する不安や戸

惑いを持つ学生も見受けられます。今後も一人ひとりの様子を見守りながら、サポートしていきたいと思っています。ご家庭でもご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。



看護医療学科 3 回生担任  
**酒井 啓子**

3回生面談では、専門性が高くなり、課題も多くて、時には睡眠時間を削りながらも、みな笑顔で話をしてくれるのが印象的でした。夢に向かって一生懸命頑張っている様子がわかります。友達関係は良好で、助け合っ

て学修しているようで、ほほえましく思います。後期は実習が続き、緊張したり、悩んだりする場面もあるかと思いますが、いつでも気軽に相談できる存在でありたいと思います。



健康栄養学科 1 回生担任  
**玉井 典子**

前期の面談では、友達ができ、大学生活は楽しいという声を多く聞き、順調にスタートできた様子にホッとしました。授業や課題が難しく「頑

張らないと大変」と、思い描いていた学生生活とのギャップに戸惑いを感じている学生もいますが、管理栄養士を目指して頑張してほしいと思います。また、今しかできないことにチャレンジして、充実した学生生活を送ってほしいと願っています。担任としてこれからの成長を楽しみに精一杯サポートしてまいりますので保護者の皆様ご支援よろしくお願いいたします。



健康栄養学科 1 回生担任  
**永澤 健**

前期の個人面談などで学生から「畿央に来てよかった」「勉強は大変で心配だけど、授業が楽しい」という声を多く聞きました。期待と多少の不

安を持って入学したと思いますが、少しずつ大学生活に慣れ、順調にスタートを切ることができたと感じています。1年生の学習内容は管理栄養士を目指す上で大切な基礎になります。まずは毎回の「授業の取り組み」と「定期試験への対策」が大切です。担任として学生の成長を見守りつつ、夢の実現に向けて支援します。今後とも保護者の方々のご支援をよろしくお願いいたします。



健康栄養学科 1 回生担任  
**根津 智子**

新入学生研修、面談、講義を通して、順調に大学生活をスタートしている様子を感じています。多くの学生が、「行動制限の時期が長かったため、

これからの大学生活は満喫したい」と、エネルギーに満ちた姿で過ごしています。また、真面目に授業に出席し、課題に一生懸命取り組んでいる様子が伺えます。後期も、自律的に学修を進めることができるようサポートしてまいりますので、ご家庭でも引き続きご支援を賜りますよう、宜しくお願いたします。



健康栄養学科 2 回生担任  
**熊本 登司子**

学生生活もほぼコロナ禍以前に戻り、サークルやボランティア活動にも積極的に参加している様子が見受けられるようになりました。授業も専門的になり、学生は知識の積み重ねが大事だということを日々実感しているようです。これからは

さらに実験・実習といった長時間の授業が増え、3年次からは学外実習も始まります。今から規則正しい生活や健康管理についてご家庭でもサポートしていただきますようお願いいたします。



健康栄養学科 2 回生担任  
**松村 羊子**

2回生となり、より専門性の高い科目が増えてきました。単位の取得状況によっては、3回生での臨地実習(学外実習)の参加の可否に関わって

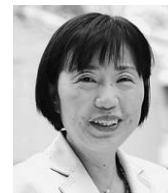
くるので、プレッシャーを感じている様子です。現在の学習が、今後の学びのベースになるので、しっかり基礎を築く大切さを伝えていきます。個々に話していると、いろんな考えを伝えてくれますが、人前での表現は苦手なように感じます。今後、様々なプレゼンテーションの場で経験を積み、積極的に伝える力を身に付けてほしいと願っています。



健康栄養学科 2 回生担任  
**米田 武志**

2回生から専門科目が増え、授業内容が難しくなります。学業についていくためには、まずは出席が重要であると、担任面談等で繰り返し伝えて

います。また、1年間の大学生活を経て自分に合った学修方法を見つけて頑張っている学生が増え、頼もしく感じています。今後も一人ひとりの様子を見守りながら、学修の支援をしていきたいと思っています。ご家庭でもご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。



健康栄養学科 3 回生担任  
**上地 加容子**

3回生になって、クラス全体が落ち着いてきたように感じています。初めての学外実習は充実した学びだったで

しょうか。大学で学んできた専門知識や技能は、管理栄養士として通用するものだったでしょうか。3回生の終盤にはいよいよ就職活動がスタートします。残りの大学生活をどのように充実したものにするか。引き続き、見守っていききたいと思います。悩んだ時には、迷わず担任に相談をしてください。



健康栄養学科 3 回生担任  
**宮前 眞智子**

3回生となり、学業では、GPAの向上や苦手科目の克服など個々の実態にあわせた目標を設定しています。また、初めての臨地実習では緊張し

ている様子もうかがえました。更には、管理栄養士の国家試験、就職活動、卒業研究など今後の学生生活に期待と不安をいだいていることもわかりました。併せて、ボランティアなど課外活動との調整の必要性も感じているようでした。学生が自分の足で少しずつ歩み始めていることを感じました。保護者の皆様からも引き続きご支援をいただくようお願いいたします。



健康栄養学科 3 回生担任  
**柴田 満**

3回生になり、専門科目の中でも基礎科目中心から応用科目への履修が増え、復習の大切さを感じている学生が多

くみられました。この夏は、学外の施設に実習に行ったり、就職活動に向けてのインターンシップに参加したりと、緊張する場面も多くなると思われます。また、10月の畿央祭

にクラスで模擬店を出店するなど、学生生活も充実しているようです。精一杯サポートさせていただきますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



人間環境デザイン学科1回生担任  
**清水 裕子**

前期の面談では、入学直後に見られた緊張もほぐれ、友人と大学生活を楽しんでいる様子が伺えました。これまでと違った学び方で、戸惑うこともある様ですが、希望する未来に向けて、友人らと切磋琢磨しながら、前向きに学修している様が見られました。また、畿央大学で学んでいることに対して、ご家族への感謝の気持ちを口にする学生も少なくなく、ご自宅での日常的な会話が学生の気持ちを支えていることが伺えました。これからもご家族に皆さまと共に、学生の成長を見守りたいと思います。引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。



人間環境デザイン学科1回生担任  
**前川 歩**

5月末から6月上旬にかけて実施した面談では、新しい大学生活への不安を上回る、期待感や楽しみ、モチベーションを多くの学生から感じ取ることができました。担任としてホッとすると同時に、フレッシュで前向きな姿勢から私自身大きな刺激をもらいました。こうしたモチベーションを、今後4年間持続し、すべての学生が充実した学びを実践できるようサポートしていきたいと思えます。後期からは専門科目が徐々に増え、課題などで大変な時期が出るかと思えます。保護者の皆様からは引き続きご支援をよろしく願いいたします。



人間環境デザイン学科2回生担任  
**東 実千代**

5月以降は大学がコロナ以前の状況に戻り、学生たちが授業時間外に学内で課題に取り組む時間が増えました。仲間と同じ空間で考え、作業する中での気づきや刺激は学びの質を大いに高めますので、やっとこの時が来たと思っております。前期面談では、限られた時間をどのようにやりくりするか、今後のコースやゼミ選択などについて意見交換し、忙しくも充実している様子でした。いよいよ3回生と共同のプロジェクトゼミの活動も始まりますので、一層の成長を期待しています。引き続きご支援のほど、よろしくお願いいたします。



人間環境デザイン学科2回生担任  
**林田 大作**

2回生になり、大学での学びも本格化してきました。5月には新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、キャンパスも活気あふれる雰囲気となり、大学生活の楽しさと面白さを存分に実感している学生が多いように感じます。6月の担任面談では、大半の学生が順調に単位修得できている一方、急激な社会の変化にうまく対応できないケースもあることがわかりました。このような状況ですが、学生の小さな心の動きにもしっかりと寄り添い、個々の将来の夢に向けて着実に努力していけるよう、担任としてサポートしていきます。ご家庭でも、より一層のご支援をよろしく願い申し上げます。



現代教育学科  
学校教育コース1回生担任

### 渡邊 真一郎

前期の授業では、グループワークなどで積極的に意見を交わしながら、クラスの友人と協働して学びを深めている様子が見られました。学生の皆さんが大学生としての学習スタイルに徐々に慣れてきているように感じます。課外活動にも積極的に参加するなど、大学生活を楽しんでいる声もよく聞かれています。これからも担任として、一人一人に寄り添い、それぞれの夢の実現に向けての挑戦を応援していきたいと思っております。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



現代教育学科  
学校教育コース1回生担任

### 岡田 良平

前期の面談を終え、新しく始まった大学生活に希望を持って取り組んでいる様子が伝わってきました。将来、学校の先生になりたい!という想いを共有できる仲間が身近にでき、切磋琢磨しながら良い友人関係を築けているのではないかと思います。その一方で、将来への不安や悩みもあるでしょう。おうちの方々にもご協力をいただきながら、学生生活を充実したものに支えていきたいと思えます。ご協力よろしくお願い申し上げます。



現代教育学科  
学校教育コース1回生担任

### 藤井 克哉

入学当初のオリエンテーションでは不安も多く大学生として、どう取り組んでいくか悩む学生も多いうように見受けられましたが、5月頃に行った面談では各学生が少しずつ大学生活に慣れていった様子が感じました。本学では貸与PCでの講義も充実しており、PCを通しての主体的な考え方も身につけると実感しております。今後も担任として学生一人一人の学びをサポートしていきたいと思えます。引き続き、保護者の皆様にもご協力を賜りますようお願いいたします。



現代教育学科  
学校教育コース1回生担任

### 横 弥直浩

1回生の担任をすることになりました。前期では担任する学生と面談をし、いろいろと話を聞きました。今年度から、中学・高等学校の数学科教員免許をとることができるようになり、大変興味を示す学生もいます。大学生になり、新しい環境で何ができるか、何をしようかと夢が広がります。私は、こんな1回生との出会いを大切にしたいと思えます。大学4年間の時間を賢く使ってほしいと思います。そして、この4年間に次につながります。



現代教育学科  
学校教育・英語教育コース  
1回生担任

### 中垣 州代

前期担任面談では、学習面での主体性を感じる声を多く聞くことができました。友達が増え、サークルやボランティアなどでも充実しているようです。前期課程のベシクセミナーにおける最終回でのグループ発表では、個々の追究から共通点を見だし、全員の学びとなる興味深い発表にすることができていました。これからの成長が頼もしいと感じました。担任として、学

生の皆さんがより充実した学生生活が送れるよう、そして、夢を実現できるよう努めてまいります。



現代教育学科  
幼児教育コース1回生担任

### 大城 愛子

前期の面談では、慣れない大学生活に緊張を感じながらも積極的に色々なことにチャレンジしていこうという意欲に満ちた学生の姿が多くありました。ですが、学生一人ひとりの思いやニーズが異なることも見えてきましたので、本人の意思を尊重しながら、それぞれの夢がかなえられるようにしっかりとサポートしていきたいと思えます。保護者の皆様には、今後とも温かい見守りとご支援をよろしくお願い申し上げます。



現代教育学科  
幼児教育コース1回生担任

### 三木 美香

面談では、環境変化への戸惑いや不安などの訴えもありましたが、「友達同士仲が良い」と口を揃えて言っていた姿が印象的でした。授業では、グループで話し合う機会も多く、互いの良さを認め協力し合っている姿が散見されます。高校生活はコロナ禍の影響で、我慢を強いられた場面が沢山あったことと存じます。その辺りも踏まえお子様の大学生活が充実したものとなるよう、サポートしていきたいと思えます。今後ともご支援の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。



現代教育学科  
幼児教育コース1回生担任

### 森岡 伸枝

今年度より着任し、一年生の担任となりました。前期は、担任の学生の皆さんが期待や不安の中で、保育者としての道を切り開いていく姿を対話を重ねながら見守りました。保育を目指す方々は皆さん優しく明るく、笑顔が素敵です。そのためか、みなさんは学生生活がとても楽しいようで、私も嬉しいと思う毎日です。才能ある若い学生の皆さんが本学で益々成長されるように、私も心を尽くしますのでよろしくお願い致します。



現代教育学科  
保健教育コース1回生担任

### 毛利 春美

先日、ベシクセミナーで小論文の発表会を行いました。論文から自身の学んだことを整理し、問いに対する考えを発表する姿に、担任面談で、悩みや不安を話していた5月から大きく成長している姿がまぶしく、また嬉しく感じました。現在は、授業だけでなく課外活動にも積極的に参加し、大学生活を「楽しい!」と言っている彼女たちには、たくましさも出てきました。学生の夢の実現に向けて保護者の皆様と共に学生を支援していきますのでよろしくお願い致します。





現代教育学科  
保健教育コース1回生担任

### 竹下 幸男

担任として、また初年次教育の授業で1回生の皆さんと関わりました。入学当初、大学での生活や勉強の仕方に戸惑っている様子の皆さんが、少しずつ順応し、大学生らしくなっていく姿を見るのは頼もしく感じられました。大学貸与のPCの扱いにも慣れ、課題の提出やウェブを通じた連絡なども円滑に進められるようになりました。初年次教育では、小論文の作成に取り組み、大学生にふさわしい論理的な思考力と表現力を身に着つつあるように感じられました。



現代教育学科  
学校教育コース2回生担任

### 奥田 俊詞

2回生になって、学生の皆さんは互いに親しくなり、サークル活動にも活発に取り組んでくれています。中には、授業にとまどい悩んでいる学生もいますが、機会を見て声をかけさせていただいております。教育実習への依頼など、進路について考える機会も増えてきています。このような中で、不安を感じる学生が増えるのではないかと私たちは考えています。ご家庭で気になることがあれば、お知らせいただけますようお願いいたします。



現代教育学科  
学校教育コース2回生担任

### 八木 義仁

マスクを外して顔と顔とを見合わせる事が多くなり、表情もよくわかるようになりました。前期の面談では、多くの学生が、1回生のことを振り返り、自分の進むべき方向、なすべき事柄などをしっかり行動していること聞き、安心しました。その反面、ここ数年の変化にやや戸惑いを感じている学生もいました。どんな些細なことでも、そんなことを感じたら、私のところに知らせてください。いつでも話を聞きますよ。



現代教育学科  
学校教育コース2回生担任

### 関口 洋平

ようやくコロナ禍も明け、学生は学習や課外活動など、のびやかに学生生活を過ごしているように感じ嬉しく思っております。二回生の後期はゼミの選定をはじめ今後の大学での学びの深化に関わる重要な時期であり、キャリアの展望についてもいっそう明確化していく時期でもあります。こうした重要な時期にある学生の支えとなるべく、担任として引き続き支援させていただきます。保護者の方もご声援くださいますよう、よろしくお願いいたします。



現代教育学科  
学校教育コース2回生担任

### 山本 真也

2年生の皆さんは1年間の大学生活を終えて、それぞれの大学生生活の過ごし方を確立してきたようです。大学では学業、部活、サークル、ボランティアをはじめと様々な活動を行うことができますが、「自分が4年間で学びたいことは何か」ということを一人一人向き合っている様子が面談の中で見受けられました。それぞれの好きなこと、大事にしたいことを見つけながら本学での学びをさらに深めてもらえればと思います。



現代教育学科  
幼児教育コース2回生担任

### 永瀨 泰一郎

5月でコロナ禍が少し落ち着きました。学生たちは自分で「マスクはしておく・はずす」を判断しながら学生生活を送っています。面談では、1回生から続けているサークルやアルバイトのことを楽しそうに話します。成績については成績が下がっていることを気にする学生がいます。この夏は初めての保育実習・施設実習もあり不安になる学生もいますが、学生同士で励まし合っているようです。引き続き保護者の皆様にはご協力を賜りますようお願い致します。



現代教育学科  
幼児教育コース2回生担任

### 上田 恵子

前期の面談では、大学生活に慣れ、学生生活を楽しんでいる様子うかがえました。学習面では、殆どの学生に成績の向上がみられ、真面目に学習に取り組んでいる姿から、担任としてこの1年間の成長を強く実感しました。この夏から実習が本格的にはじまりますので、将来の夢に向かって、さらなる成長を遂げることを期待しています。保護者の皆様には、お子様の頑張りを褒めていただき、体調管理など引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。



現代教育学科  
幼児教育コース2回生担任

### 宮村 裕子

2回生前期では、大学での学習や課外活動など、それぞれに目標をもって取り組んでいる様子が伝わってきました。専門分野の授業が少し難しく感じられる、保育実習をうまくやり遂げられるだろうか、という不安の声がある一方で、子どもと関わるボランティア活動を新たに始めたという声も聞きました。様々な学びの経験を通じてじっくり考え、時には悩み、しっかり行動することで、自身の進路選択につなげてほしいと願っています。今後も健康に気を付けて学生生活が送れるよう、ご家庭でもより一層のご支援をよろしくお願いいたします。



現代教育学科  
保健教育コース2回生担任

### 高田 恵美子

大学生生活にも慣れ、授業以外も、サークルやボランティア活動への参加、アルバイトや友人との交流など、計画的に時間を使っているようです。前期は次年度の実習に向けて母校等を訪問し、依頼を行うなど、夢の実現に向けて一歩一歩着実に進んでいます。面談では、進路の不安や悩み、体調不良等を訴える学生もいるため、保護者の皆様と共に見守り支援してまいります。学生が学び続けることができるようにご協力よろしくお願いいたします。



現代教育学科  
保健教育コース2回生担任

### 辰巳 智則

今年度はスタートから、ほとんどの授業が対面で行われています。質問や疑問を直接先生に投げかけ、相互作用を生みやすい学習環境となることで、成績の受け止め方も肯定的になっているように思います。また、教育ボランティアに参加する学生も増えてきました。学年が上がって、専門科目が増えていくことも相まって、将来の進路を見据えた動きを活発化さ

せているように思われます。保護者の皆様方には引き続きサポートをいただきたく、よろしくお願いいたします。



現代教育学科  
英語教育コース2回生担任

### Randy Muth

大学生になったお子様は立派な大人及び社会人になるための重要な最後の段階に入っています。お子様がこれまで成長できたのは保護者の愛情や努力のたまものであり、さらに今、またその愛情がお子様にとって必要とされています。お子様の大学での活動に対してしっかり関心を持って頂きたいと思えます。保護者からの愛情ある声かけはお子様にとって不可欠のものなので、将来に対して希望と不安を抱いているお子様を励まして頂きたいと思えます。

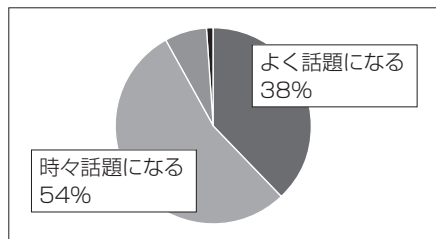


# アンケートへのご協力ありがとうございました

今年度も保護者アンケートに多数のご回答をいただき、まことにありがとうございました。ここではアンケートの結果と、皆様から頂戴したご意見のいくつかをご紹介します。

## 【アンケートの結果】

問) 畿央大学での生活について、家庭でどの程度話題になりますか。

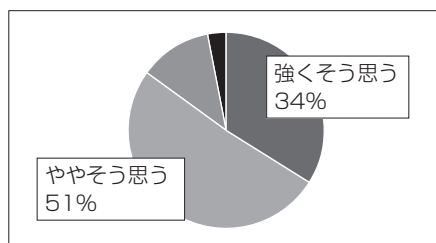


昨年度の「後援会だより」でもご紹介した設問です。例年「よく話題になる」「時々話題になる」と回答される方が多く、昨年度はその合計が約87%でしたが、今年度はさらに増えて約92%に上りました。内訳を見ますと、

・部活動やサークル、友達	30.4%
・単位や成績	27.0%
・大学の授業や先生	15.6%
・進路や就職	13.2%
・アルバイト	11.5%

となり、授業のことや進路のことだけでなく、日常的な学生生活のことを幅広く話題にしていることがうかがわれます。

問) 学生本人は、畿央大学での生活に充実感を持って取り組まれているように思われますか。



こちらも昨年度もご紹介した設問になりますが、一昨年度から続く「強くそう思う」「ややそう思う」の回答率上昇が今年度も継続して見られたことは、大変嬉しく感じています。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴って、それまであった授業や課外活動における行動制限が完全に撤廃されました。もちろん新型コロナウイルス感染症自体が世の中から消えたわけではありませ

んが、やはり長かったコロナ禍を抜けたという感覚は、学生の皆様にとっては（もちろん私たち教職員にとっても）大きな解放感を伴うものでした。

問) 畿央大学が充実している点は何だと思われますか。

昨年度までの保護者アンケートでは「畿央大学が今以上に充実すべき点」をお伺いしていましたが、今年度は少し角度を変えて「今充実していると思われる点」をお伺いしました。回答の上位5つを見ると、

- ①専門性を身に付けさせる教育
- ②進路を考えさせるキャリア教育
- ③キャリア支援（就職活動・資格取得など）
- ④教養を身に付けさせる教育
- ⑤施設・設備の充実

となっています。

本学はこれまで小規模大学の特性を生かし、教員と進路支援部職員による「ダブル担任制」等の施策によって、きめ細かな教育・学生指導を心がけてきました。今回頂戴した回答は、そうした取り組みがご理解、共感いただけている証であると、喜ばしく感じているところです。国家試験合格や教員免許状等の資格取得を目的として日々勉学に励んでおられる学生の皆様に、さらに充実した教育をご提供させていただきたい、との気持ちを教職員一同が改めて強く持ちました。

一方で、

- 広報活動の充実
- リカレント（卒後）教育の充実

などには未だ課題が多いという現状も再認識いたしました。特に広報活動については、本学の「知名度の低さ」をご指摘いただくご意見をたびたび頂戴していることから、本学としても重要な課題として取り組みを模索しています。いたずらに派手な広告を打つばかりで内実が伴っていない、という事態に陥ることは厳に慎みつつ、今後さらに検討を進めていきたいと考えています。

7月に開催いたしました保護者懇談会では、教育学部の小山内秀和准教授より「大学でどう学び、何を身に付けるのか～客観的に考え、読み、書くことを目指して～」と題する講演を行い、本学が現在行っている「アカデミック・ライティング」や「論理的思考力の涵養」に関する教育の一端を保護者の皆様にお聞きいただきました。こ

の「後援会だより」に要旨が掲載されていますので、当日お聞きいただいた方も、そうでない方も、ぜひ一読ください。また、同じく保護者懇談会の全体会の中でも少しご紹介いたしましたが、今年度は「食の支援（食堂の人気メニューを一定期間廉価で提供）」「奈良交通バス回数券の販売」など、学生生活面の充実に向けたさまざまな施策を実現させることができました。

今後も本学では皆様からのご意見を真摯に受け止めながら、「コロナ禍以前に戻す」のではなく「コロナ禍以前を超える」教育・学生生活を学生の皆様にご提供できるよう努めてまいります。引き続きご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 【アンケートに頂戴したコメントから】

- 学内にコンビニを作ってほしい。

以前、地下食堂横にあったデイリーヤマザキショップが閉店して以来、学内に売店がない状態がつづいていましたが、先頃、社会福祉法人のご協力による売店出店を試験的にスタートさせました。現時点では曜日・時間帯など限定的な営業となっていますが、状況を見て今後の計画を立てていきたいと考えています。

- 個人ロッカーを増やしてほしい。

現在、個人ロッカーは先着順で申し込みを受け付けて使用していただいておりますが、どうしても学生の皆様にとって「使い勝手の良い場所・悪い場所」があり、申し込み状況に大きな差が出るようになってきました。今後、ロッカーの移設・増設などの対応を行うことで、より多くの方に使用していただけるよう、検討を進めているところです。

- バスの割引券を続けてほしい。

奈良交通バスの格安回数券は当初、後援会様の補助による「実証実験」という形でスタートしましたが、一定以上の売り上げが見込まれることが明らかになりましたので、今後は大学負担による「本稼働」へと移行し、継続的にご提供してまいります。

最後になりましたが、10月21日（土）・22日（日）の2日間にわたって大学祭「畿央祭」が開催されます。昨年度まではコロナ禍のあおりを受けてプログラムや来場者数に制限をもうける形での開催でしたが、今年度は原則として制限のない、コロナ禍以前に戻した形での開催を予定しております。保護者の皆様におかれましても、ぜひご来場いただければ幸いです。よろしくお祈りいたします。

# 第21回 畿央祭

2023年 10月21日(土) 10:00~17:00  
22日(日) 10:00~16:00

## 跳〜おどる〜

今年の畿央祭のテーマは「跳〜おどる〜」です。

ここ数年の生活で発揮出来なかった自分に秘めているパワーをこの畿央祭にぶつけ、一人ひとりが心おどるような挑戦をしてほしいという願いをこめて、このテーマに決定しました。1・2回生217名が実行委員に立候補し、開学20周年イヤーの畿央祭を盛り上げます!

私たち在校生にとっては、初めて入場制限や事前予約などの制約を受けずに学園祭を開催予定です。

保護者の皆様もぜひご来学いただき、大学最大のイベントを楽しんでいただければ幸いです!

第21回畿央祭実行委員会



## 授業日カレンダー

注:補講はふだんの授業曜日・時限に関わりなく6時限目や土曜日、祝日などに実施される場合があります。  
注:休業日(日曜日・授業のない祝日)の事務取扱は行っておりません。  
注:※印のついた日はキャンパスに入ることはできません。■は休講日

大学での授業は、前期・後期各15回行われます。①〜⑭は授業曜日ごとの授業週数を表わしています。⑮⑯週の最終授業期間は、定期試験、平常授業、補講が組まれます。ふだんの時間割と異なることもありますので、ご注意ください。

9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1金 前期成績・後期学籍 金簿引渡送付予定	1日	1水 ⑥	1金 ⑨	1月 元日 ※	1木 ⑮ 最終 授業期間	1金
2土	2月 ②	2木 ⑥	2土 ⑨	2火 ※	2金 ⑮	2土
3日	3火 ②	3金 ⑦ 文化の日	3日	3水 ※	3土 ⑮	3日
4月	4水 ②	4土 ⑥ 修 取 消 指定校・ 社会人試	4月 ⑩	4木	4日	4月
5火	5木 ②	5日 ⑦ 期 間	5火 ⑩	5金 ⑬	5月	5火
6水	6金 ③	6月 ⑧	6水 ⑪	6土 ⑬	6火	6水
7木	7土 ③	7火 ⑦	7木 ⑩	7日	7水	7木
8金	8日	8水 ⑦	8金 ⑩	8月 成人の日	8木	8金
9土	9月 ③ 授業日 (スポーツの日)	9木 ⑦	9土 ⑩	9火 ⑭	9金	9土
10日	10火 ③	10金 ⑥	10日	10水 ⑭	10土	10日 一般入試
11月	11水 ③	11土 公募推薦入試	11月 ⑪	11木 ⑬	11日 建国記念の日	11月
12火	12木 ③	12日 公募推薦入試	12火 ⑪	12金 休講日 (試験会場開設)	12月 振替休日	12火
13水	13金 ④	13月 ⑦	13水 ⑫	13土 大学入学共通 テスト ※	13火	13水 卒業式リハー サル(予定)
14木	14土 ④	14火 補講日	14木 ⑪	14日 大学入学共通 テスト ※	14水	14木 卒業式
15金	15日 リーダーシップ 入試 ※	15水 ⑧	15金 ⑪	15月 ⑭	15木	15金
16土	16月 ④	16木 ⑧	16土 ⑪	16火 ⑮ 開 講	16金	16土
17日	17火 ④	17金 ⑦	17日	17水 補講日	17土	17日
18月 敬老の日	18水 ④	18土 ⑦	18月 ⑫	18木 ⑭	18日	18月
19火	19木 ④	19日 公募推薦入試	19火 ⑫	19金 ⑭	19月 一般入試	19火
20水	20金 講義準備 後期学籍納入期日	20月 ⑧	20水 ⑬	20土 ⑭ 一般入試	20火	20水 春分の日
21木 前期卒業式	21土 畿央祭	21火 ⑧	21木 ⑫	21日 一般入試	21水	21木
22金 ① 授業開始	22日 畿央祭	22水 ⑨	22金 ⑫	22月 ⑮	22木	22金 後期成績・前期学籍 金簿引渡送付予定
23土 ① 授業日 (秋分の日)	23月 グリーンキャンペーン 補講日(午後)	23木 勤労感謝の日	23土 ⑫	23火	23日 休講日 (一般入試)	23土
24日 リーダーシップ 入試 ※	24火 ⑤	24金 ⑧	24日	24水 ⑮	24土 天皇誕生日	24日
25月 ①	25水 ⑤	25土 ⑧	25月 ⑬	25木 ⑮	25日	25月
26火 ①	26木 ⑤	26日	26火 ⑬	26金 ⑮	26月	26火
27水 ①	27金 ⑤	27月 ⑨	27水 ⑬	27土 ⑮	27日	27水
28木 ① 履修登録 変更メド	28土 ⑤	28火 ⑨	28木	28日 休講日 (大学院 入試)	28水	28木
29金 ②	29日	29水 ⑩	29金 ※ 29月 ⑯	29月	29日	29金
30土 ②	30月 ⑤	30木 ⑨	30土 ※ 30月 ⑯		30日	30土
	31火 ⑥		31日 ※ 31月 ⑯		31日	31日

## 冬木学園への ご支援のお願い

冬木学園では、教育・研究環境の整備及び基金の充実を目的とする募金に加えて、今年度も、新型コロナウイルス感染拡大に伴う学生生徒等への奨学金支給等各種支援の充実を目的とした募金へのご協力を広く皆様方をお願いしております。

本学園の取り組みをご理解いただき、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

### ◎ 税額控除の適用について

本学園は、寄付税額控除制度の適用を受けることのできる学校法人として文部科学大臣より証明されています。個人の方が支出した寄付金について、確定申告時に税額控除制度の適用を選択した場合、以下により算出された額が所得税額から控除されます。

$$(\text{税額控除対象寄付金}^{※1}) \times 40\% \\ = \text{控除対象額}^{※2}$$

※1 総所得額の40%まで

※2 所得税額の25%まで

### ◎ 寄付のお申込方法

法人事務局総務部(担当:竹本・諸多)にお問い合わせ下さい。

TEL: 0745-54-1602

E-mail: soumu@kio.ac.jp